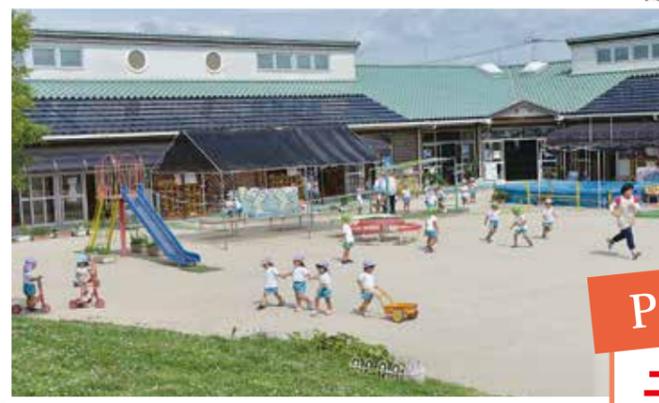


子育て王国そうじゃの 今とこれから

少子高齢化や、それに伴う人口減少などに対応するため、子どもの育ちを支え、子育て世帯の住みやすいまちをつくることは、自治体にとって最大の課題です。

「子育て王国そうじゃ」を銘打つ総社市が、平成27年度から始まる「子ども・子育て支援新制度」への準備をどのように進めているのか、そして、新たに取り組もうとしている事業にはどのようなものがあるのか、「今」と「これから」を紹介します。



平成27年度に向けて、認定こども園化を検討中の清音幼稚園（写真左）。清音幼稚園では幼稚園児と保育園児が同じクラスで仲良く遊ぶ（写真右）



Part 1

子ども・子育て支援新制度

- 計画的な保育量の確保
- 小規模保育など多様なメニュー
- 幼保一体化の促進



次世代を担う
そうじゃの
子どものために



親子でいっしょに遊ぶ、子育て相談ができるつどいの広場



歯科診察やフッ素塗布などを行うたんぼぼ活動

現在、総社市には待機児童はいませんが、希望の保育所に入れないなどの保留児童が42人（7月1日現在）います。一方で、地域子育て支援センターやファミリーサポートセンターなど、より多くの人に利用していただきたい既存のサービスがあります。また、今年度限定で、国から地域少子化対策強化交付金を約376万円受け、「孤育て解消まちづくり事業」や「子育てライフプラン設計応援事業」といった少子化対策も行います。

総社市が用意するこうした子育て支援サービスをあらためて知っていただくとともに、課題を解消するため、特に重点的に取り組んでいるPart1から3までの施策をご理解いただきたいと思います。

Part 2

そうじゃ式 早期一貫発達サポートシステム

- 1人1人の個性に応じた支援
- 支援の必要性を早期発見
- 保幼小の連携の推進

Part 3

子どもの医療費適正化

- 2億5800万円以上で制度見直し
- 2億5000万円以下なら子育て支援の充実へ
- 子どもの健康を第一に